

第 59 回リグニン討論会・バイオマス変換研究会・抽出成分利用研究会合同企画  
「秋期講演会および若手の会」実施報告

清水 邦義（九州大学農学研究院）

今年度は、平成 26 年 9 月 12 日（金）～ 13 日（土）に、第 59 回リグニン討論会（若手の会）、バイオマス変換研究会ならびに抽出成分利用研究会との共同主催として実施しました。リグニン討論会終了後、同会場にて、『芳香族バイオマスプラスチックにおける「超高耐熱と分解性」の両立』と題して北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究科准教授の金子達雄先生よりご講演いただきました。その後、バスで「あわらグランドホテル」に移動し、『リグニンの研究を継続するために努力していること』と題して、東京大学大学院農学生命研究科助教の秋山拓也先生から話題提供いただきました。

金子先生の講演会では、芳香族系バイオマス等を原料としたバイオプラスチックに関する豊富なデータならびに考え方を紹介いただきました。その分子設計に関する発想は、リグニン研究者にとっても、大変有意義なものとなりました。また、あわらグランドホテルにおいては、秋山先生からリグニン研究に携わる若手研究者の誰もが直面する問題、例えば、アカデミックポストへの就職、研究費獲得、海外留学等について、実体験を元に、紹介くださいました。参加者一同、そのお話に聞き入っておりました。金子先生の講演会では、60 名もの参加者がありました。また、あわらグランドホテルにもそのうち 40 名がバスで移動し、秋山先生のご講演とともに、懇親会も大いに盛り上がり、深夜まで続きました。